

第7回生物多様性検討委員会 にしんの森再生プロジェクト

1. プロジェクト概要と取りまとめ方針

✳ プロジェクトの目的

日本海沿岸部の未立木地などで地域本来の森林再生を図り、生物多様性の保全に寄与する森林再生手法等の確立を行う。

✳ 調査の進め方

再生事業評価

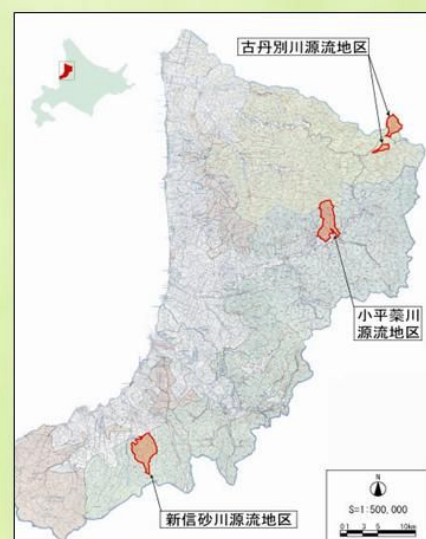


長期的
モニタリング

① 森林遷移

② 動植物の変化

【無施業地・先行事業地・事業実施地】
動植物のイベントリーの充実
【調査種・方法・評価項目】



2. 調査方法

- 1) 森林調査
- 2) 野生動物調査
- 3) 森林再生事業実施後の事業評価(モニタリング調査)
- 4) 森林再生のための目標林推定調査

地 区	調査区分	調査項目
① 古丹別川 源流地区	基礎 調査	森 林 林分構造調査(方形区)、植生調査(方形区)
		野生動物 哺乳類(痕跡・自動撮影・捕獲)、鳥類(ラインセンサス・定点(猛禽・夜))、 両生・は虫類(目視)、昆虫類(任意採集・ベイトトラップ)
② 小平薬川 源流地区	継続 調査	植 生 植生調査(方形区)
		野生動物 鳥類(ラインセンサス・定点(猛禽・夜))、昆虫類(任意採集・ベイトトラップ)
③ 新信砂川 源流地区	継続 調査	植 生 植生調査(方形区)
		野生動物 鳥類(ラインセンサス・定点(猛禽・夜))、昆虫類(任意採集・ベイトトラップ)
	モニタ リング 調査	森 林 植生調査(方形区)、標本木を選定した結実調査、シカ被食状況調査
		野生動物 哺乳類(痕跡・自動撮影)、一般鳥類(定点)
		水 質 水質(一般項目・生活環境項目)

3. 取りまとめ方針

- ✳ 取りまとめ: 各プロジェクト共通の統一フォーマット
- ✳ 分析手法: 森林再生事業3地区の無施業地、先行事業地、
事業実施地 の森林構造を基本とし定量的に行う。

項目	取りまとめ	分析手法
林 分 構 造	樹種別出現数、材積、密度、 樹高、DBH平均値等	樹種構成、立木密度、材積、階層構造等を無施業 区、先行事業区を指標に、事業実施地を分析
植 生	フローラ・希少種の有無 方形区別の種数、被度・群度等	林分構造と植物相の関係分析 植物相と相対照度の関係分析
鳥 類	地区・林況分類別出現種、組成、 希少種の有無 地区属性(地形植生等)の相関整理	地区・ライン・林相別優占種、多様度の指数化 事業実施地別優占種(モニタリング) ワシタカ・フクロウ類生息状況整理
哺乳類		事業実施地の生息種変化を分析 環境別哺乳類相を環境別に数量化(多変量解析)
両 生・ は 虫 類	地区・林況分類別種構成、繁殖状況、 希少種の有無 地区属性(地形植生等)の相関関係整理	事業実施地の確認種の変化を分析
昆虫類		事業実施地の確認種の変化を分析 地表性甲虫を指標に多様度を指数化 調査区の種群組成の類似度を分析

4. 調査位置図

古丹別川
源流地区

新信砂川
源流地区

小平藻川
源流地区

参考（樺釧）

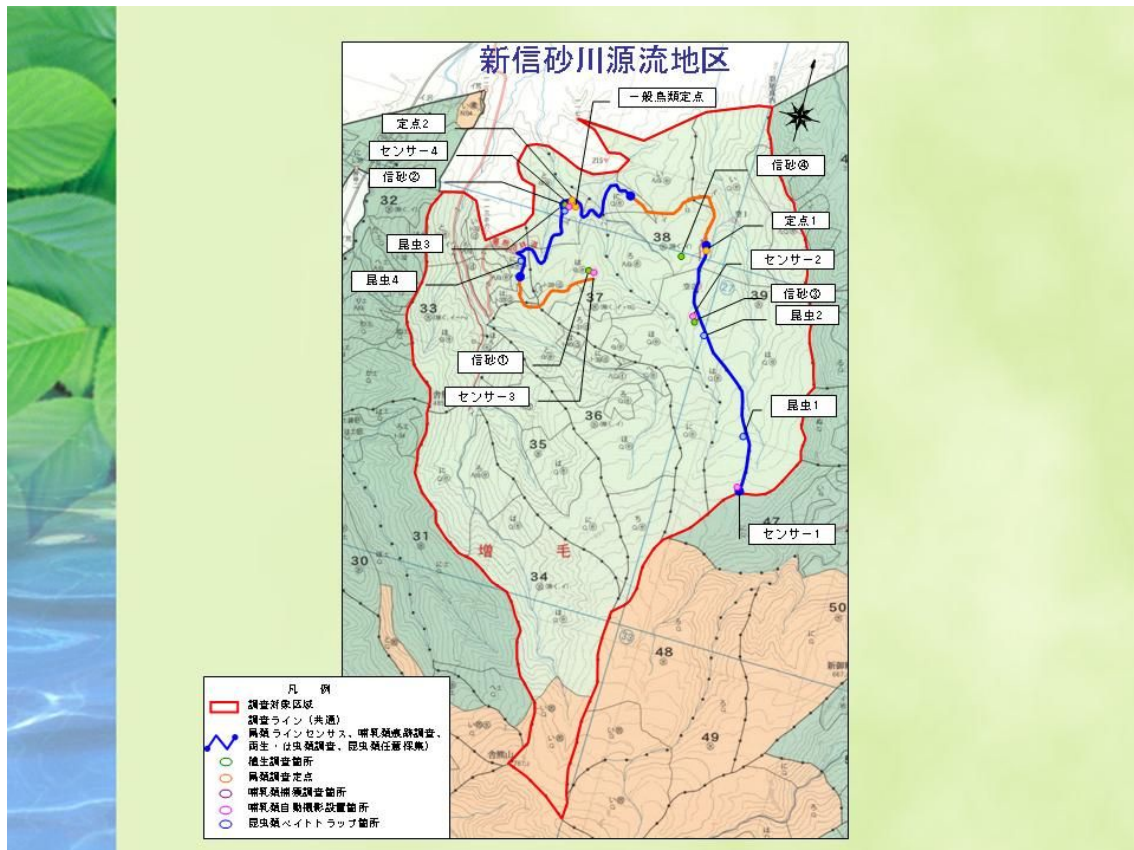
にしんの森再生プロジェクト
鳥類調査位置図

- ラインセンサス調査ルート
- 一般鳥類調査位置
- 猛禽類調査位置
- 猛禽類調査位置
- 調査範囲

0 1 5 10 km

5:1,400,000





5. 森林調査(植生)

✳ 平成19年度調査概要

- 新信砂源流地区で3つの帯状区調査
 - 信砂①：択伐跡地でシナノキ、トドマツ、イタヤ等があり、平均樹高6.2m
 - 信砂②：未立木ササ地でホオノキ、ハリギリ、イタヤ等があり、平均樹高12.0m
 - 信砂③：択伐跡地でイタヤ、シナノキ、ダケカンバがあり、平均樹高6.7m
- 小平薬源流地区で3つの帯状区調査
 - 小平①：択伐跡地でイタヤ、シナノキ、ウダイカンバ等があり、平均樹高6.2m
 - 小平②：広葉樹優占のトドマツ人工林で、イタヤ、トドマツ等があり、平均樹高8.3m
 - 小平③：トドマツ人工林でトドマツが優占し、平均樹高は11.0m

✳ 本年度調査項目と内容

固定調査区の設定	・調査区は100m×10mとし、中心線両端(0m、100m)に標識杭設置(GPSで位置を特定)。(基本的に斜面垂直方向とするが、斜面形状により分割、屈曲、延長調整)
林分構造調査(帯状区)	・調査方法は毎木とし高さ1.3m以上の全木の樹種、胸高直径、樹高を調査。(立木の衰退・腐朽状況、食害・生物生息痕跡、枯死木、伐根及び倒木等) ・調査時期: 落葉樹開葉期の8月に実施。
植生調査(方形区)	・固定調査区内の0~100m間に20m間隔に2m×2mの方形区を6箇所設定、方形区内の高さ1.3m未満の植物種、被度・群度(ブラウンプランケ法)を調査。 ・1.3m未満の木本は樹種、樹高、地際径を調査した。ササ類は種平均高を調査 ・調査時期・回数: 7月と9月の計2回実施。
照度調査	・平成20年調査ササ優占帯状区(古丹別①、古丹別②)の各方形区において、ササ下、ササ上の2点を同時に照度計(TENMARS LUX/FC LIGHT METER)で計測。5回計測で平均値を採用。

✳ 調査結果(带状区)



古丹別①

- 昭和63年択伐後、平成2年にトドマツを植林。広葉樹が侵入し混交林化している。
- 樹種：ベニイタヤ、トドマツ、ハルニレ、キハダ、ハリギリ等（計25樹種）
- Ha当り本数：3,290本/ha
- 上層木樹高：10～24m
- 平均樹高：3.7m



古丹別②

- 平成2年択伐実施箇所
- 樹種：ベニイタヤ、トドマツ、ミズナラ、ダケカンバ、ケヤマハンノキ等（計13樹種）
- Ha当り本数：1,260本/ha
- 上層木樹高：16～19m
- 平均樹高：6.3m

✳ 調査結果(参考带状区)

3つの調査区域を含む地域の代表的な壮齢林構造を呈していると考え、参考带状区として調査を実施した。



幌糠①

- 伐根を含むが、ミズナラ大径木が多く見られる森林。過去に天然林施業指標林として取り扱われていた。
- 樹種：ミズナラ、ベニイタヤ、ハウチワカエデ、トドマツ、ホオノキ等（計11樹種）。
- Ha当り本数：830本/ha
- 上層木樹高：15～26m
- 平均樹高：11.6m



✳ 調査結果(植生フローラ)

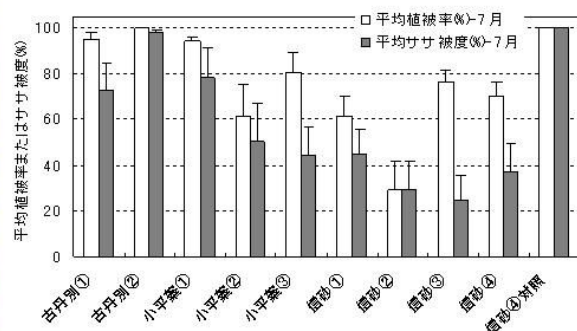
- ✳ 全エリアで211種類が確認された。全般的に、日本海側の多雪環境を反映した植物相となっていて、ハイヌガヤ、リョウメンシダ、ジュウモンジシダなどの多雪地植物が豊富に含まれる。

箇所	古丹別①	古丹別②	古丹別② の沢筋	小平薬①	小平薬① の沢筋	小平薬②	小平薬③
確認 種数	83	67	69	54	59	63	84

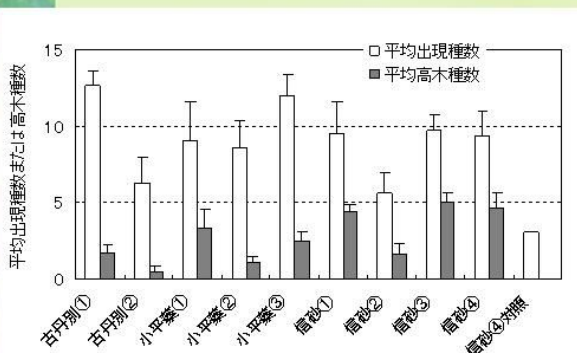
箇所	信砂①	信砂②	信砂② の沢筋	信砂④
確認 種数	34	42	66	41

✳ 調査結果(方形区調査)

ライン名	方形区数	平均植 被率(%) 7月	平均サ サ被度 (%) 7月	平均植 生高(m) 7月	平均サ サ高(m) 7月	平均出 現種数	平均高 木種数	相対照度 (ササ下)÷ (ササ上)
古丹別①	6	95.0	72.5	2.02	2.02	12.7	1.7	9%
古丹別②	6	100	98.3	1.68	1.68	6.3	0.5	1%
小平薬①	7	94.3	78.6	1.84	1.64	9.0	3.3	
小平薬②	4	61.3	50.3	1.45	1.40	8.5	1.0	
小平薬③	6	80.8	44.2	1.62	1.42	12.0	2.5	
信砂①	5	61.7	45.0	1.68	1.68	9.5	4.3	
信砂②	5	29.0	29.0	0.90	0.90	5.6	1.6	
信砂③	6	76.7	25.0	1.31	1.14	9.7	5.0	
信砂④	6	70.0	37.5	1.13	1.13	9.3	4.7	
信砂④対照	2	100.0	100.0	1.95	1.95	3.0	0	

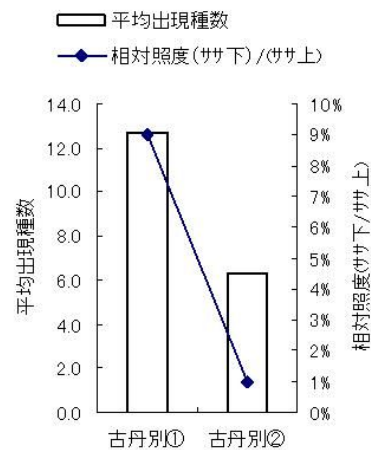


平均植被率またはササ被度



平均出現種数または高木種数

✳ 調査結果(方形区調査)



平均出現種数と相対照度

6. 動物調査(鳥類)

✳ 平成19年度調査概要

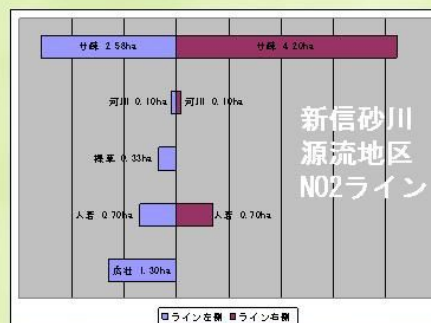
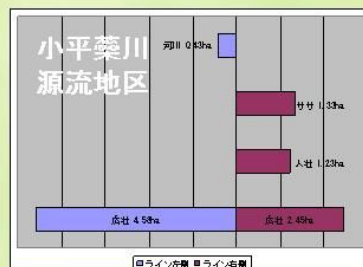
- ✳ 新信砂源流地区: 7目20科45種
- ✳ 小平藁川源流地区: 6目15科28種
- ✳ 希少種: オオタカ、ハイタカ、エゾライチョウ、クマゲラ、オオアカゲラ

✳ 本年度調査項目および調査地区

地区名	調査区分	
①古丹別川源流(新規)	ラインセンサス ワシタカ・フクロウ定点調査	ラインセンサス2.0km—1本 定点2
②小平藁川源流(継続)	ラインセンサス ワシタカ・フクロウ定点調査	ラインセンサス2.0km—1本 定点2
	定点調査(モニタリング)	施業予定地周辺—3点
③新信砂川源流(継続)	ラインセンサス ワシタカ・フクロウ定点調査	ラインセンサス2.0km—2本 定点2
	定点調査(モニタリング)	試行施業地周辺—2点

✳ 調査ラインの林相

各ラインセンサスの左右別林相は18タイプ分類
 (林相把握面積: 2.0km×50m (片側25m) = 10ha)



✳ 調査日程

地区	ラインセンサス			ワシタカ類定点(上段) フクロウ類定点(下段)		一般鳥類定点	
	春季		秋季	春季	秋季	春季	
	1回目	2回目	1回目	1回目	1回目	1回目	2回目
①古丹別川 源流地区	6/7 3:55-4:45	6/19 5:27-6:18	10/1~	6/7 9:00-14:00 6/6 17:30-20:30	10/1~ 10/1~	-	-
②小平薬川 源流地区	6/6 4:45-5:56	6/19 5:27-6:18	10/1~	6/6 9:00-14:00 6/5 17:30-20:30	10/1~ 10/1~	6/6 3:29-4:05	6/19 4:33-5:08
③新信砂川 源流地区	6/4 4:47-6:25 6/5 4:15-5:15	6/20 3:17-4:15 5:19-6:05	10/1~	6/4 9:00-14:00 6/3 17:15-20:15	10/1~ 10/1~	6/5 3:41-4:05	6/20 4:50-5:13

★ ラインセンサス調査(春季調査)

各調査地区の春季全調査で確認した鳥類：25科62種

地 区	古丹別川源流部	小平薬川源流部	新信砂川源流部
種 数	21科42種 (不明1種含む)	19科41種 (不明2種含む)	21科53種 (不明3種含む)

古丹別川 源 流 部	アオジ、キビタキ、センダイムシクイ、ウグイスが優占種10%以上、次いでヤブサメ、クロツグミなど、広葉樹林から針広混交林の林床がササ地を好む種が多い
小平薬川 源 流 部	センダイムシクイ、キビタキ、ウグイス、アオジが優占種10%以上で、次いでツツドリ、ヤブサメ、アカゲラなどで、広葉樹林の林床がササ地を好む種が多い
新信砂川 源 流 部	コルリ、ヒガラ、コガラが優占種10%以上で、次いでウグイス、コサメビタキ、アオジ、キビタキ、センダイムシクイなどで、針広混交林や針葉樹林を好む種が多い また針広混交林から広葉樹林を好む種や、開放地環境を好むキジバト、カワラヒワも確認

★ ワシタカ・フクロウ類定点調査（春季調査）

古丹別川 源 流 部	ワシタカ類：確認なし フクロウ類：コノハズク、アオバズク
小平薬川 源 流 部	ワシタカ類：トビ、ノスリ フクロウ類：コノハズク、オオコノハズク
新信砂川 源 流 部	ワシタカ類：ハチクマ、トビ、オオタカ、ノスリ フクロウ類：エゾフクロウ、ヨタカ

★ 新信砂川源流部ハチクマの営巣

項 目	内 容
確認種	タカ科ハチクマ属ハチクマ
性別等	成鳥♂、成鳥♀、幼鳥
営巣木	ハリギリφ28cm 樹高22m
皿 巢	枝又、長年使用の巢 (5段程度の積上げあり)



ハチクマ営巣木



雌雄(給餌)



巣内幼鳥(10日齢程度)

✳ 一般鳥類定点調査（モニタリング-春季）

小平薬川源流：平成20年度施業予定地-1165林班ぬ小班（トド人工林）

新信砂川源流：平成19年試行施業地-37林班と小班（地掻き施業）

小平薬川 源 流 部	10科18種を確認 優占種：センダイムシクイ、アオジ、コルリ 次いでキビタキ、カワラヒワなど 林床にササが繁茂する環境を好む種が優占するほか、樹洞性のゴジュウカラや、夏季には比較的高標高部に移動するウソなども確認
新信砂川 源 流 部	11科18種を確認 優占種：コルリ、キビタキ、イカル 次いでウグイス、センダイムシクイ、アオジなど 広葉樹のササ地を好むコルリと、広葉樹や針広混交林の樹冠を利用するキビタキ、イカルが最も優占 また樹洞性のアカゲラ、コゲラ、ゴジュウカラ、針広混交林や針葉樹林を好むヒガラを確認

（哺乳類）

✳ 平成19年度調査概要

科	種	小平薬川源流部	新信砂川源流部
トガリネズミ科	トガリネズミ類	○	○
	コウモリ類		○
イヌ科	キツネ	○	○
	タヌキ	○	○
クマ科	ヒグマ	○	
イタチ科	クロテン		○
	イタチ類		○
シカ科	ニホンジカ	○	○
リス科	エゾリス		○
	シマリス		○
ネズミ科	エゾヤチネズミ	○	○
	ミカドネズミ	○	
	アカネズミ	○	○
	ヒメネズミ	○	○
計		5科9種	7科12種

✳ 本年度調査項目および調査地区

地区名	調査区分	
①古丹別川源流(新規)	痕跡調査 自動撮影調査 捕獲調査	調査ライン2.0km—1本 センサーカメラ定点2箇所 捕獲調査2箇所
②小平薬川源流(継続)	痕跡調査	調査ライン2.0km—1本
③新信砂川源流(モニタリング)	痕跡調査 自動撮影	調査ライン2.0km—2本 センサーカメラ定点2箇所

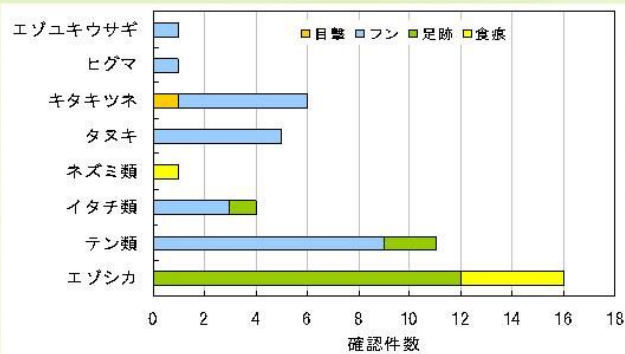
✳ 調査日程

地区	痕跡調査		自動撮影調査		捕獲調査
	春季	秋季	春季	秋季	秋季
①古丹別川源流地区	6月6日	10月下旬 (降雪直後)	7月8日 ～8月7日	10月 下旬	9月1日 ～9月3日
②小平薬川源流地区	6月6日	10月下旬 (降雪直後)	-	-	-
③新信砂川源流地区	6月5日	10月下旬 (降雪直後)	7月8日 ～7月23日	10月 下旬	-

✳ 調査結果（全調査—9月調査まで）

目	科	種 名	古丹別	小平薬		新信砂	
			H20	H19	H20	H19	H20
モグラ	トガリネズミ	トガリネズミ類		捕		観 捕	
コウモリ	コウモリ	コウモリ類	-		-	自	-
ウサギ	ウサギ	ユキウサギ					痕自
ネズミ	リス	エゾリス				観	自
		エゾシマリス				自	
	ネズミ	エゾヤチネズミ	捕	捕		捕	
		ヒメネズミ	捕	捕		捕	
		ミガドネズミ		捕			
		アカネズミ	捕	捕		捕	
ネコ	クマ	ヒグマ		観自			痕自
	イヌ	キタキツネ	痕	観自	痕	観自	
		タヌキ		観自	痕	観	痕
	イタチ	クロテン				観自	
		イタチ類			痕	観	
		テン類					痕
ウシ	シカ	エゾシカ	痕	観自	痕	観	痕
平成19年度調査:5目8科14種 平成20年度調査:4目7科11種(9月時点)			3科5種	5科9種	3科4種	7科12種	6科6種

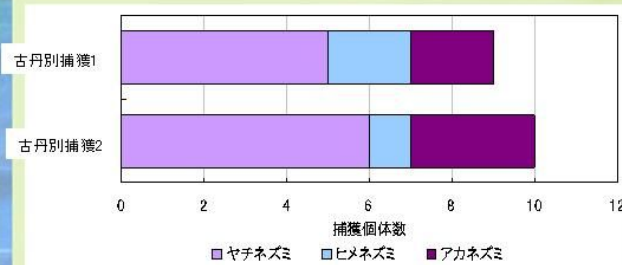
種別の痕跡確認件数



センサーカメラ記録



捕獲調査結果（古丹別）



(両生・は虫類)

★ 平成19年度調査概要（新信砂川源流地区）

両生類2科2種：サンショウウオ科エゾサンショウウオ
アカガエル科エゾアカガエル

は虫類1科1種：ナミヘビ科アオダイショウ

★ 本年度調査項目および調査地区

地区名	調査区分	
①古丹別川源流(新規)	目視・痕跡調査	調査ライン2.0km—1本
②小平薬川源流(継続)	目視・痕跡調査	調査ライン2.0km—1本
③新信砂川源流(継続)	目視・痕跡調査	調査ライン2.0km—2本

★ 調査日程

地 区	春季目視・痕跡調査
①古丹別川源流地区	6月6日
②小平薬川源流地区	6月6日
③新信砂川源流地区	6月5日

✳ 調査結果

目	科	種名		古丹別	小平築	新信砂
カエル	カエル	エゾ アカガエル	成体	1	2	1
			鳴声		1	
			幼生	2	7	
			卵塊			
サン ショウウオ	サン ショウウオ	エゾサン ショウウオ	成体			
			幼生			
			卵のう	5	1	5
2目2科2種				7	11	6

✳ は虫類の確認はなかった。



(昆虫類)

✳ 平成19年度調査概要

平成19年度は昆虫調査未実施。

✳ 本年度調査地区・項目・調査日

地区名	調査方法	調査数量	調査日
①古丹別川 源流(新規)	任意採集 ベイト トラップ	任意採集ライン2.0km—1本 ベイトトラップ(20個)—2箇所	任意採集: 7/25、7/30 ベイト: 7/25~7/30
②小平築川 源流(新規)	任意採集 ベイト トラップ	任意採集ライン2.0km—1本 ベイトトラップ(20個)—2箇所	任意採集: 7/25、7/30 ベイト: 7/25~7/30
③新信砂川 源流(新規)	任意採集 ベイト トラップ	任意採集ライン2.0km—1本 ベイトトラップ(20個)—2箇所	任意採集: 7/16、7/24 ベイト: 7/16~7/24

ベイトトラップ調査位置

地区名	St	林小班	林況	周辺植生状況等
①古丹別川源流地区	St.1	2136 ち	天然生林	ヤナギ類、イタヤカエデ、シラカンバ等の低木・亜高木林でチシマザサが密生する林縁
	St.2	2135 へ	育成天然林	ヤナギ類、ケヤマハンノキ、オニグルミ等の低木・亜高木でチシマザサの密生と一部林道法面草地
②小平薬川源流地区	St.1	1164 か	天然生林	ケヤマハンノキ、オニグルミ、ハルニレ等の低木から高木林でオオイタドリやアキタブキ、チシマザサなどが生育する湿地林縁
	St.2	1162 い	トドマツ人工林	46年生トドマツ人工林の作業道沿い
③新信砂川源流地区	St.1	38 は	天然生林	トドマツ、ダケカンバが点在する林分で林床は高さ2.3mのチシマザサが密生
	St.2	38 は	天然生林 (施業実施地)	ササの刈払い施業地でカンバ類などの稚樹やツル類などの植生が密生
	St.3	37	育成天然林 (施業実施地)	平成19年度の地掻き地
	St.4	33 に	育成天然林 (植林実施地)	平成15年頃のトドマツ人工林

✳ 調査結果

ベイトトラップ調査＝13科44種（任意採取種同定中で含まない）

ライン別：小平薬川源流部が種・数か最も多い

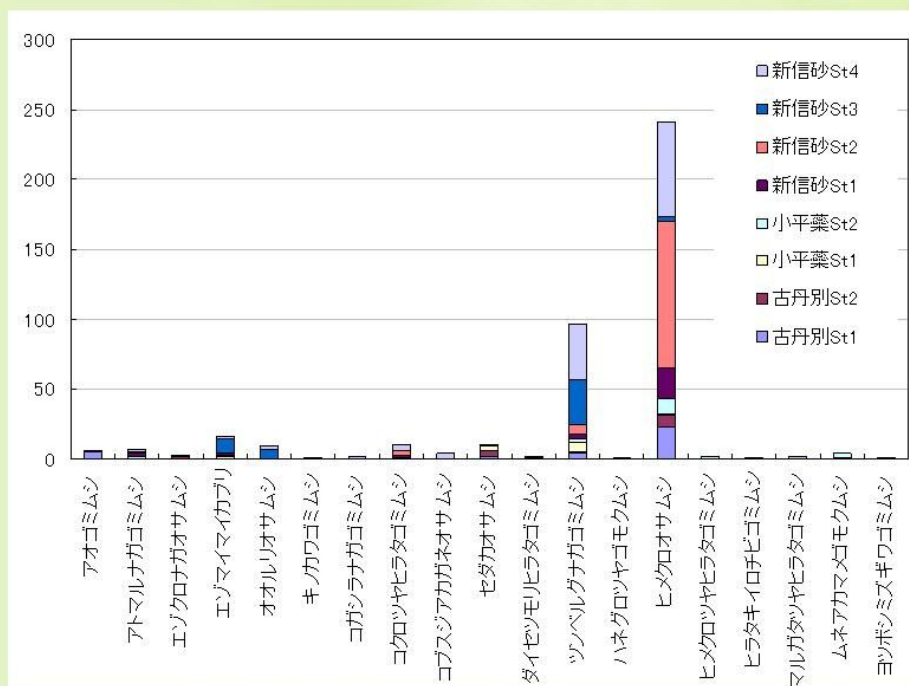
解析するオサムシ科：ヒメクロオサムシ241個体

ツンベルグナガゴミムシ97個体が突出する

地 区	ベイトトラップ確認種数
①古丹別川源流地区	7科16種
②小平薬川源流地区	12科33種
③新信砂川源流地区	ライン1：8科15種 ライン2：5科15種



科	古丹別川源流地区		小平薬地区		新信砂地区			
	ライン1		ライン1		ライン1		ライン2	
	古丹別 St1	古丹別 St2	小平薬 St1	小平薬 St2	新信砂 St1	新信砂 St2	新信砂 St3	新信砂 St4
オサムシ科	6	4	6	10	5	5	5	10
ハンミョウ科			1					
シデムシ科	1	2	2	1	4		2	2
ハネカクシ科	2	1	2	4	1	1	1	1
アリヅカムシ科						1		
クワガタムシ科	1	1	1	1			1	1
コガネムシ科	1	1	1	1		1	1	1
コメツキムシ科	1		1	1		1		
ジョウカイボン科			1					
ゴミムシダマシ科				1			1	
ハムシダマシ科							1	
ハムシ科			1					
ゾウムシ科			1					
アリ科	2	2	3	3	1	1	3	
13科44種	7科14種	6科11種	11科20種	8科22種	4科11種	6科10種	8科15種	5科15種
	7科16種		12科33種		7科15種		8科22種	



オサムシ科の種別捕獲個体数

7. 新信砂源流地区 ミズナラ植栽地

- 重点事業地区である38林班い小班の地拵え箇所(平成19年秋実施の試行的事業地)において、平成20年5月にミズナラ600本、トドマツ400本の植栽を実施。
- ミズナラの育成が、当地域の森林再生事業にとって重要であることから、調査プロットを設定し、ミズナラ50本の生存と樹高調査を平成20年7月に実施。



ミズナラ植栽地状況

平成20年7月調査結果

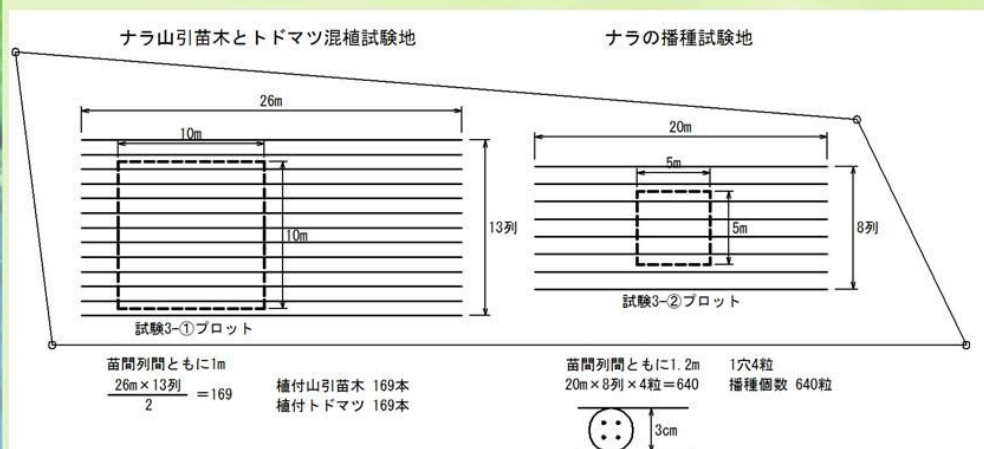
生存率100% 平均樹高0.56m



ミズナラ植栽木。誤伐防止のため
ピンクテープを付けている。

8. 幌糠115林班か小班の事例

- 幌糠115林班か小班は、ミズナラを主体とする大径木の群生地。
- 昭和57年に、「ミズナラ播付け及びミズナラ山引苗とトドマツの植込み区」の試験プロットが設定され、平成元年まで継続調査を実施。
- このプロット箇所の大きな特定が可能であり、さらに当プロジェクトで取り組んでいるミズナラ植栽地の短期的な指標と成り得ることから、新たに調査プロットを設定し、平成20年7月に調査を実施。



過去の試験地と新たな試験プロット

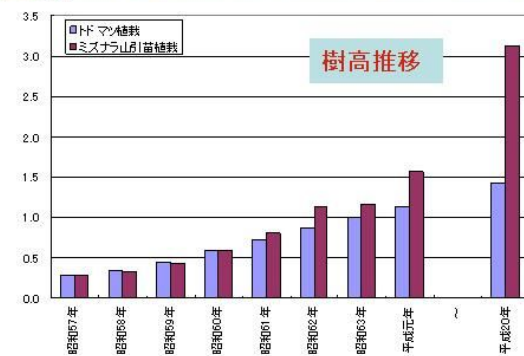
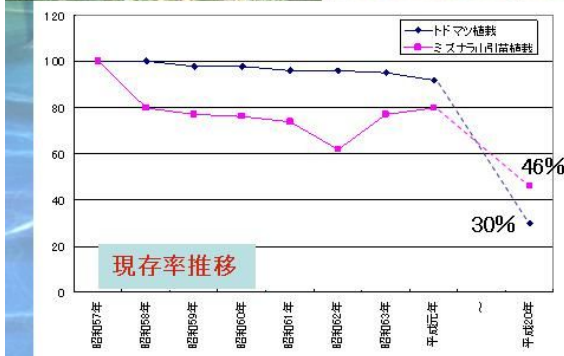
※ 昭和57年設定調査区と新規プロットの位置関係は誤差を含む。

トドマツ植栽・ミズナラ山引き植栽箇所

調査プロット内現況



樹種	出現本数	出現率(%)	樹高(m)		
			平均	最大	最少
アズキナシ	3	2.8	3.1	4.6	2
イタヤカエデ	38	35.9	2.9	4.8	1.5
ウダイカンバ	5	4.7	12.6	15	10
シラカンバ	17	16	6.9	14	2.3
トドマツ	15	14.2	1.4	2	0.8
ナナカマド	2	1.9	5.7	5.8	5.6
ハウチワカエデ	3	2.8	1.4	1.7	1.3
ミズナラ	23	21.7	3.1	4.8	1.5
総計	106	100	3.8	15	0.8



ミズナラ播種箇所調査結果



成生率推移

年 度	ミズナラ播種 成生率(%)
昭和57年	播種
昭和58年	74
昭和59年	63
昭和60年	62
昭和61年	59
昭和62年	56
昭和63年	53
平成元年	56
平成20年	1

調査プロット内現況

樹 種	出現本数	出現率(%)	樹高(m)		
			平均	最大	最少
アズキナシ	1	5.6	3.5	3.5	3.5
イタヤカエデ	10	55.5	2.4	3.3	1.5
シラカンバ	1	5.6	4.4	4.4	4.4
ナナカマド	2	11.1	4.3	6	2.5
ホオノキ	1	5.6	2.5	2.5	2.5
ミズナラ	3	16.6	2.9	3.2	2.5
総計	18	100	2.9	6	1.5

9.平成20年事業実施箇所

新信砂川源流地区

協働の場

一般鳥類定点

H20作業道新設

信砂⑤

定点1

センサー2

信砂④

昆虫2

昆虫1

センサー1

試行的事業地

H20作業道新設

凡 例

- 調査対象区域
- 調査ライン（共通）
- 鳥類ラインセンサー、哺乳類痕跡調査、両生・は虫類調査、昆虫類（蒼黒線）
- 植生調査箇所
- 鳥類調査地点
- 哺乳類捕獲調査箇所
- 哺乳類自動撮影設置箇所
- 昆虫類ベイトトラップ箇所

H20人力地拵え 15.24ha

H20機械地拵え 10.04ha

10. 地域等と協働の森林づくり

民有林関係者及び地域のボランティア団体と協働の森林づくり活動を実施。
(11月1日予定)

日本海 新信砂川 増毛漁場

増毛町市街地

ふ化場 浄水場

R233

NPO法人美林舎
不在村森林所有者の人工林の間伐を主体に活動

民有林 国有林

北の魚つきの森事業(北海道)
河畔林に広葉樹を植樹

にしんの森再生プロジェクト
未立木地・ササ地等で、その土地本来の森林を再生